

2025～2026 年度会長方針『ロータリーの基本を見つめ奉仕活動を通じて地域社会に貢献しよう』

よいことの  
ために  
手を取りあおう

会長/渡邊恭司 幹事/根本裕司 SAA/杉本達哉 クラブ運営委員長/相澤一郎  
例会 毎週月曜日 12:30 上野精養軒 TEL03-3821-2181  
事務局 〒110-0008 台東区池之端 3-2-2 メゾン池之端 302 橋本登美子

TEL03-5814-2491 FAX03-5814-2490 e-mail office@tokyo-ueno-rc.com

ロータリー親睦活動月間

1813 回 6 月 1 日

No.1803

前回の例会報告

5/25(月)12:30～13:45 オープン例会

@上野精養軒 3F 桐の間

卓話 衆議院議員 斉藤りえ 氏

演題:「私しかできない役割」を求めて

～新人国会議員誕生までの道のり～

紹介者 相澤クラブ運営委員長

■出席報告 (会員 55 名内出席免除 7 名)

会員数	出席者	出席率	5 月 11 日修正出席率
(55)50	35	70.00%	82.00%

ロータリーソング 「日も風も星も」

クラブソング 「めぐる友愛 春」

ソングリーダー 新保会員

「4 つのテスト」唱和

オープン例会お客様 3 名

地区内来訪者 本郷 RC 副会長 山路敏之さん

青少年交換留学生 ファンファンさん、横田真愉乃さん

富坂会員ご家族 富坂早紀さん

会長挨拶



皆さんこんにちは。  
本日のオープン例会には、3名のお客様にお越し頂いております。ようこそ東京上野RCの例会にお越し頂き

有難うございます。本日は、短い時間ではございますが東京上野RCの雰囲気をお楽しみ頂ければと思います。また本日は新入会員として平田俊司さんをお迎えすることが出来ました。ようこそ東京上野RCへのご入

会、誠にありがとうございます。後程入会セレモニーがありますので宜しくお願い致します。6/3のグルメを楽しむ会には40名を超える方からご登録を頂いております。肉尽くしの会という事でメインは和牛のヒレ肉をお出しして頂く事になっていましたが、追加で私の方から差し入れてローストビーフも出して頂くように致しました。ご参加の皆様、楽しみにして頂ければと思います。台北国際大会も近くなってきました。本会議の参加時間が午前か午後かをご連絡頂くようにメールにて配信しましたが返信がまだの方がいらっしゃいますのでご返信下さいませようお願い致します。また、ガバナーナイトに参加出来ない奥様やご家族の為にリージェント台北の中華レストランの個室を予約しています。こちらの方もご参加の連絡があまり来ておりませんのでご連絡頂くようお願い致します。6/13(土)に奥様やご家族向けに観光を手配する予定です。こちらは後程メールにてご案内差し上げますので宜しくお願い致します。本日の卓話は、衆議院議員斉藤りえ様に「私しかできない役割」を求めて ～新人国会議員誕生までの道のり～という題名で卓話をして頂きます。楽しみにしておりますので宜しくお願い致します。

入会式

紹介者 長岡会員



本日は平田さんを新入会としてお迎えすることで大変嬉しく思います。平田さんは、上野観光連盟の様々なイベントを取り仕切っていただいている第一通信社という代理

店の社長です。講談社さんの子会社になる会社で、本当に素晴らしい仕事をいただいています。今後、上野 RC にとって新しい切り口のイベント展開という奉仕活動をおこなっていただけるのではないかと期待しております。どうぞよろしくお願い致します。

#### 新入会員 平田俊司会員



歴史と伝統のある東京上野 RC に入会させていただきありがとうございます。ご紹介いただきましたように第一通信社は講談社グループの子会社として 71 年間活動しております。その中で私は 43 年ほど在籍しております。上野観光連盟さんとのお付き合いも 2009 年頃から 17 年ほどになります。これから上野 RC の皆さんと一緒に、奉仕活動にお役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



#### ファンファンさん



今月は、たくさんの貴重な経験をすることができました。月の初めには、三輪さんご家族と一緒に神戸へ行き、灘高校の文化祭に行ってきました。その後、USJ にも行き、アトラクションもスリルがあって楽しかったです。また今月は二つのお祭りにも参加しました。一つ目は、

上野 RC の皆さんと参加した下谷神社大祭、そして二つ目は浅草の三社祭りです。どちらのお祭りでも、御神輿を担ぎました。肩はとても痛くなりました。とても楽しく、忘れられない経験になりました。さらに東京ドームで初めて野球観戦をしました。会場の熱気や応援の迫力にとっても感動しました。そして、先週は初めて相撲を見に行きました。とても良い席だったので近くで見ることができ、本当に迫力があって、激しかったです。日本滞在もあと少しですが、楽しみたいです。よろしくお願い致します。ありがとうございます。

#### 横田真愉乃さん



ついに私の派遣される街が決まりました。ファンファンと同じウドンタニになりました。ファンファンとバイクで 5 分の距離で安心しております。出国日も 8/16 に決まり、残り約 80 日の日本での生活を楽しまたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

#### 幹事報告

他クラブ関係 例会変更は掲示板をご覧ください。

#### ニコニコ

☆ようこそオープン例会へ。斉藤先生の卓話を楽しみにしております。

本郷 RC 山路副会長 4/22 当クラブの記念式典へ多くの会員にご参加いただき本当にありがとうございました。

渡邊会長 ☆+平田俊司さんを新入会員としてお迎えすることができました。ようこそ東京上野 RC へ。ご入会おめでとうございます。

今村会員 大相撲夏場所小結若隆景の 2 回目の優勝を祝して！

尾中会員 本社移転に伴い今日より新社屋にて仕事始めです。住所が文京区になりましたのでようやく本当の上野 RC の会員になれました。新人をようやくお願い致します。鳩山会館のすぐそばです。

**富坂伸吾会員** 本日の例会に長女が参加しておりますのでニコニコ致します。

**長岡会員** 平田様、ご入会おめでとうございます。これから共に充実したロータリー活動を行っていきましょう。

**佐谷会員** 齊藤先生の卓話、楽しみにしております。

**新保会員** ☆+息子が卒業し、日大豊山育友会会長を退任しました。RCで学んだ奉仕の精神で頑張った結果、疲れ果てました。でも最後には持ちきれないほどのお土産をもらってしまい全てが報われました。仲間にそしてRCに感謝。

**相澤会員** 齊藤りえ先生の卓話を楽しみにしております。先生、お忙しい中ありがとうございます。

☆塚田会員、樋口会員、安藤会員、橋本会員、  
根本幹事

(本日の合計 80,000 円)  
(本日までの累計 2,886,000 円)

## 卓話

紹介者 相澤クラブ運営委員長



本日オープン例会の卓話に衆議院議員の齊藤りえ先生をお迎え致しました。こちらプロジェクターをご用意してお

りますが、先生の言葉がそのまま出ますので、音声で聞き取れない部分はこちら目で追って内容を確認下さい。後ろの方で見えづらい場合は資料も置いておりますのでご利用下さい。また、先生は明後日27日、に、厚生労働委員会の一般質疑に立たれるということで、大変お忙しい中、お越しいただいております。ぜひお楽しみいただければと思います。よろしくお願ひ致します。



東京上野ロータリークラブ

「私にしかできない役割」を求めて  
～新人国会議員誕生までの道のり～

衆議院議員  
齊藤りえ

## ～はじめに～

皆様、はじめまして。  
只今、ご紹介にあずかりました、  
衆議院議員の齊藤りえでございます。

本年2月の衆議院選挙におきまして、比例東海ブロックより議席をお預かりいたしました。

本日は、東京上野ロータリークラブの皆さまの前でお話しさせていただく貴重な機会を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

## ～本日の趣旨～

本日は、私自身の歩みをお話ししながら、  
「バリアのない社会」とは何か、

そして、障がいのある当事者が社会で役割を果たすことの意味について、

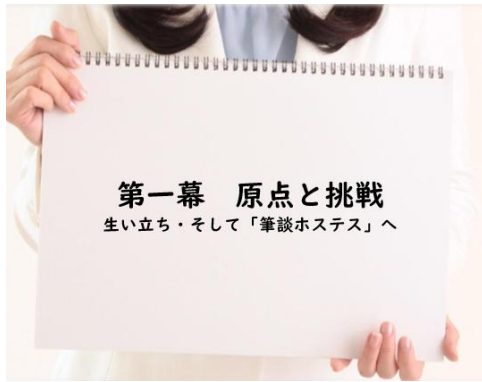
皆様と共に考えるひとときとなりましたら幸いでございます。

## ～本日の進め方～

ご存じの通り、私は聴覚に障がいがございます。  
そのため本日はスライドの文字投影を中心に進めさせていただきます。

これもまた一つの「多様な伝え方」でございます。

至らぬ点もあるかと存じますが、よろしくお願ひ申し上げます。



## ～生い立ち～

私は、雪国・青森県青森市に生まれました。生まれたときは、何不自由ない健康な体でした。

しかし、1歳10か月のとき、高熱による髄膜炎に罹り、聴覚を失いました。



## ～聴覚を失ったことに気づいた日～

高熱で入院していた私に、父がキティちゃんのおもちゃを買ってくれました。

音を鳴らして私を驚かそうとしたところ、私は、まったく振り向かなかったそうです。

それが最初の気づきのきっかけだったと聞いております。

## ～両親の戸惑いと覚悟～

私の両親は、それまで聴覚障がいのある方と接する機会がありませんでした。

我が子が聴力を失ったあと、どのように育てていくのか、どのようにコミュニケーションをとっていくのか、すべてが未知の連続だったと聞いております。

## ～両親の信念～

それでも両親は、私にとって何が最善かを必死に考え、教育環境を整えてくれました。

両親が大切にしていたのは、

「障がいがあっても、一人でもしっかり生きていける子に育てる」

という想いでした。

## ～幼少期の教育環境～

小学校に上がる前、私は、

ろう学校の幼稚部、保育園、幼稚園に日替わりで通っておりました。



ろう学校では、耳の聞こえない友だちと共に、言葉や発音の練習をしておりました。

一方で、保育園や幼稚園では、聞こえる子どもたちの中で過ごしておりました。

## ～今思うインクルーシブ教育～

今でこそ「インクルーシブ教育」という言葉がありますが、当時の両親は、まさにその考え方を実践してくれていたのだと思います。

**障がいがあっても社会の中で生きていく力を身につけてほしい。**

自分の好きなことに挑戦し、やり遂げる力を持ってほしい。

その願いがあったのだと思います。

## ～習い事と家族の支え～

ピアノやバレエ、ダンスなど、習い事にも多く通わせてもらいました。

習い事から帰ると、母は熱心に勉強に付き合ってくれました。



また父は、私がアニメを楽しめるよう、字幕をつけたり、音楽を体で感じるよう振動する機器を用意してくれるなど、様々な工夫をしてくれました。

その視点を、家族から教わったのだと思います。

## ～学校生活で感じた壁～

中学校・高校は、ろう学校ではない学校へ進みました。

聴覚障がいのある生徒は、私一人でした。私も不安でしたが、周囲の友人たちも、聴覚障がいのある人とどう接してよいのか戸惑っていたのだと思います。一方で、幼なじみやその友人、また生徒会長をしていた兄の存在もあり、周囲の皆様に気にかけていただきながら、比較的早く学校生活になじむことができました。

## ～「差別」でなく「わからない」～

はじめてお会いする方とは、挨拶はできても、なかなか会話が續かないこともありました。

しかし多くの場合、それは差別ではなく、

**「どう接してよいかわからない」戸惑い**なのだと感じました。

## ～心のバリアフリーの原点～

だからこそ、幼い頃から障がいのある方と触れ合う機会を持つことが、自然と心のバリアフリーにつながるのだと思います。

「知らないこと」が壁をつくり、

**「知ること」**がその壁を取り払っていく。

これは、私自身の経験から強く感じていることです。

## ～日本にいる障がい者の割合～

突然ですが、

日本には障がい者が人口の何%ほどいると思われませんか？

**1% ・ 3% ・ 5% ・ 10%**

この4つの中から心の中でお考えいただければと思います。

## ～20人に1人～

実は、身体障がい、知的障がい、精神障がい、を含めると、



障がいのある方は**人口のおよそ5%、つまり20人に1人ほど**いらっしゃいます。



障がいのある方は、決して特別な存在ではなく、

この社会の中に自然に共に生きている存在です。

## ～音の記憶がないということ～

私自身は幼い頃に聴力を失ったため、**「音の記憶」**がありません。

音が高い、低いという感覚も実感として分かりませんが、声の細さや太さ、振動の違いなどから、なんとなくの感覚をつかむことはあります。

実際にのどに触れていただくと、その違いを感じていただけるかと思います。

## ～同じ聴覚障がいでも違いがある～

一方で、ある程度年齢を重ねてから聞こえなくなる**「中途失聴」**の方は、それまでできていたことができなくなる不便さや、自信を失うつらさを抱えることもあります。

同じ聴覚障がいであっても、**先天的なもの**なのか、**中途的なもの**なのかによって、感じ方には大きな違いがあります。

さらに、聴覚障がいと一言で申しましても、そのあり方は**一人ひとり異なります**。

**「聞こえない=手話」**というイメージを持たれることも多いですが、**必ずしもそうではありません**。

育ってきた環境や教育、また、いつ聞こえなくなったかによって、コミュニケーションの方法は大きく変わります。

例えば、途中で聴力を失われた方の中には、発音のできる方もいらっしゃいますし、手話でなく、口の動きや文字でコミュニケーションをとる方も多くいらっしゃいます。

このように、聴覚障がいのある方の中にも、

**多様な背景と多様なコミュニケーションの形がある**ということを、

ぜひご理解いただければと思います。

## ～障がいは欠陥ではない～

障がいがあると  
「大変ですね」  
「かわいそうですね」

と言われることもあります。

確かに、これまで何不自由なく過ごされてきた方にとっては、不便さや戸惑いを感じる場面もあるかと思います。

しかし、私は、小さい頃からこの状態が当たり前であったため、障がいを欠陥だとは考えておりません。

人それぞれ背の高さや性格が違うように、聞こえない人、見えない人、さまざまな違いがある。

それもまた、一人ひとりの個性であると  
感じています。

一方で、ホステスや政治の仕事は、  
「人に話を聞く」「伝える」仕事であるため、  
もどかしさを感じ、涙したことも度々ありました。

## ～娘の言葉～

私の娘は、いわゆるCODA（コーダ）です。  
(聞こえない親を持つ、聞こえる子どものことです)

周囲から「お母さんをよく助けているの？」  
と聞かれることがあります。

もちろん助けてもらうこともありますが、  
時には「自分でできるでしょ」と言われること  
もあります。

私は、それで良いと思っています。

娘にも気持ちやペースがあり、  
それを尊重することが大切だと感じています。  
あるとき娘に、  
「お母さんが聞こえないことをどう思う？」  
と聞いたことがあります。

すると娘は、「みんな違って当たり前じゃな  
い？」と答えてくれました。

この言葉に、何度も救われてきました。

## ～社会の側にある課題～

障がいは、本人の中だけにあるものでは  
ありません。

**その人の力を活かさない社会、  
挑戦する機会を閉ざしてしまう環境、**

そこにこそ**改善の余地**があるのではないかと  
感じています。

## ～接客業へ進んだきっかけ～

私は、20歳のとき、接客業の世界に入りました。

最初のきっかけは、知り合いのママから  
「働いてみない？」と声をかけていただいた  
ことでした。

**「耳が聞こえなくても、筆談でコミュニ  
ケーションが取れるじゃない」**

その一言が、私の背中を押してくれました。

## ～銀座への憧れ～

その後、銀座のクラブという  
世界に興味を持つよう  
になりました。

耳が聞こえない私に務まるか  
という不安もありましたが、  
**「自分なりのやり方があるはずだ」**  
と信じ、挑戦することを決意しました。



## ～筆談という接客～

当初は筆談中心にコミュニ  
ケーションを取っていました。  
しかし関係が深まるにつれて、  
**筆談に頼らなくても意思疎通  
ができるようになる場面も増  
えていきました。**

筆談を通して、言葉を丁寧に  
選ぶようになり、**言葉の重み  
や温かさを強く感じるよう  
になりました。**



## ～周囲の温かな支え～

もちろん、私一人の力だけで  
続けられたわけではありません。

先輩方に可愛がっていただき、  
お客様にも温かく受け止めて  
いただきました。

同伴やアフターにもお誘い  
いただき、銀座という場で  
多くの学びを得ることができ  
ました。



## ～理解があったから働けた～

耳が聞こえない私が接客の仕事が続けることができたのは、

周囲の皆様のご理解と温かな支えがあったからです。

心から感謝しております。

## ～筆談ホステスとして～

その後、『筆談ホステス』という本を出版させていただき、多くの方に知っていただくこととなりました。

注目をいただくことに戸惑いもありましたが、私の経験が、障がいについて考えていただくきっかけになれば、意味のあることだと感じておりました。



## ～挑戦してほしいという思い～

障がいがあっても、自分らしく輝くことができます。

夢を持つことも、自己実現に向かって挑戦することもできます。

当時の私は、そのことを多くの方に伝えたいという思いで活動しておりました。

現在はテクノロジーや社会の仕組みも進化し、より多くの可能性が広がってきていると感じています。

## ～見えにくいバリア～

しかしながら、前向きな経験ばかりではありません。

私たちの社会には、まだ多くの見えにくいバリアが存在しています。

それは、当事者になったり、当事者と関わりを持つことで、初めて気づくことも少なくありません。

## ～日常の不便～

以前はよく、

「朝はどうやって起きるのですか」と聞かれていました。



現在はスマートフォンのアラームや光タイマー、振動式の目覚まし時計などがありますが、かつては扇風機にタイマーをつけて起きるなど、工夫をされている方もいらっしゃいました。

また、聴導犬が起こしてくれるケースもあります。



## ～暮らしの中の困りごと～

そのほかにも、

- ・テレビのニュースが理解しにくい
- ・電話ができない
- ・インターフォンでの会話が難しい
- ・電車内のアナウンスが聞こえない
- ・災害時の緊急放送が分からない
- ・病院での呼び出しや説明が分かりにくい

こうしたことが、日常の中での大きな不安となります。

## ～見た目では分からない障がい～

聴覚障がいは、外見からは分かりにくい障がいです。

補聴器をつけていなければ、健常者と同じように見えることもあります。

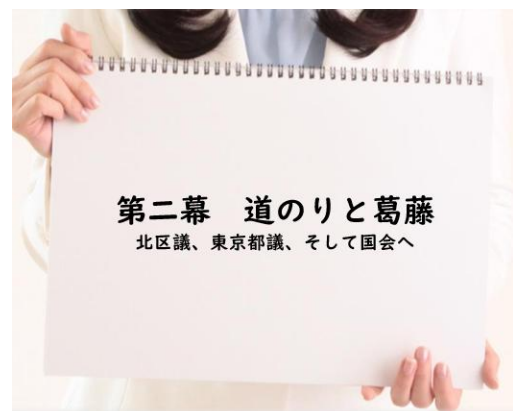
だからこそ、困っていることに気づかれにくいという課題があります。

## ～伝える努力～

私自身も、

「それくらい理解できるでしょう」ではなく、「理解しにくいのが当たり前だからこそ、伝えていく」という姿勢を大切にしています。

その積み重ねが、他者理解につながり、**多様性のある社会**をつかっていくのだと考えております。



第二幕 道のりと葛藤  
北区議、東京都議、そして国会へ

## ～政治の原点～

「人の心が聴こえる街に」

これは、私が政治家として歩み始めたときのキャッチフレーズです。

選挙の際、ボランティアの皆様と共に、一生懸命考えた言葉でした。

## ～言葉の奥にある想い～

私は耳が聞こえないため、相手の言葉をすべて正確に受け取ることが難しい場面があります。

例えば、口の形が似ている言葉は区別がつきにくく、単語だけでは理解できないこともあります。

そのため、前後の文脈や表情から意味を読み取るよう努めています。

常に**想像力を働かせながら、コミュニケーションをとっています。**

## ～障がいは強みになる～

このような経験を通じて、言葉の奥にある想いや感情を読み取る力が養われました。

これは私にとって、一つの強みであると感じております。

障がいは、見方を変えれば**個性であり、力にもなると**考えています。

## ～北区議会議員へ～

そうした思いを持ち続けていたところ、区議会選挙候補にお声がけをいただきました。一度はお断りしましたが、4年後に再び機会をいただき、2015年、東京都北区議会議員選挙に立候補し、トップ当選で議席をいただきました。

子育ての最中でもあり、社会の中で様々な壁を実感していたことも、政治を志した理由の一つです。

## ～働く機会の壁～

聴覚障がいがあることで、就職の機会が限られる現実も経験してきました。

しかし、環境さえ整えば、能力を発揮できる方は多くいらっしゃいます。

問題は、その機会に**出会えないこと**にあります。

## ～社会に出ることの大切さ～

だからこそ、障がいのある方にも、社会に出て、働き、挑戦し、活躍していただきたいと考えています。

そのためには、本人の努力だけでなく、

**社会の側の受け入れ体制も重要**です。

## ～狭間を埋める政治～

障がいのある方の思いと、受け入れる側の不安や戸惑い。その間をつなぐことが、政治の役割の一つだと考えています。

制度を整えること、理解を広げること、

そして共に働く経験を増やすことが**重要**です。

## ～北区議・都議として～

私は北区議会議員を1期、東京都議会議員を1期務めてまいりました。

現場に近い立場で、当事者意識を大切に障がい者施策、子育て、福祉、教育などに取り組んでまいりました。

## ～議場へのパソコン持ち込み～

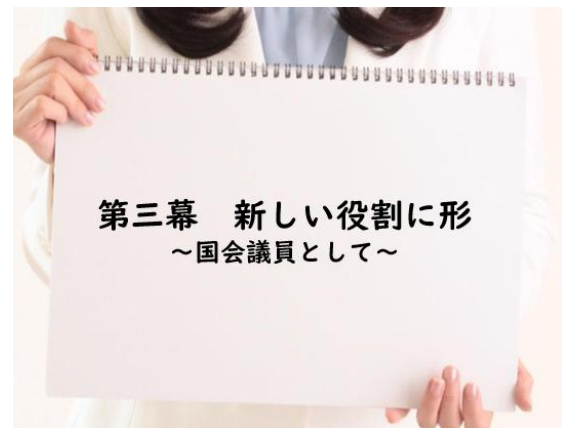
議会では情報保障の課題にも取り組み、日本全国初めて、議場でのパソコン使用を実現していただきました。

今では、こうした取り組みが全国に広がりつつあります。

## ～ハードとソフトのバリアフリー～

バリアフリーには、**設備や制度**といったハード面と、**人の理解**というソフト面の両方が必要です。

どちらが欠けても、**真のバリアフリーは実現**しません。



## ～衆議院議員として～

現在、私は衆議院議員として活動しております。なぜ東海比例なのかと申しますと、私が尊敬している政治家、**野田聖子先生**とのご縁があり、お力添えをいただき、このような機会を頂戴いたしました。

様々な流れの中でいただいたこの大切な議席を、**責任をもって最大限に活かしていきたい**と考えております。

ここにいらっしゃる皆さまには、釈迦に説法ではございますが、国会は、国民生活に直結する法律や予算を審議し、国の方向性を決める場であり、地方議会で感じてきた**現場の課題**を

**国の制度へとつなげていく**ことが、**私の役割**であると考えております。



## ～衆議院議員の仕事～

現在、皆さまもご存知の通り、衆議院議員の仕事は、法律をつくることだけではございません。

国の予算が、どの分野に、どのように使われるのかを審議すること。政府の政策が、本当に国民のためになっているのかを確認すること。

そして何より、**現場の声を国政に届けること**。その一つひとつが、**非常に重要な役割**であると感じております。

## ～予算の意味～

私は、予算とは「**国の意思**」そのものであると考えております。

どこにお金を使うのか。  
どの課題を優先するのか。  
どの人たちを支えていくのか。  
そこには、その国が何を大切にしているのが表れると感じています。



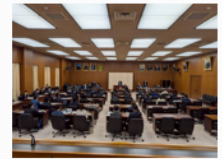
最近では、インクルーシブ教育などが注目を集めていますが、それに限らず、多様な人たちが社会に存在し、協働しながら創り上げていくという文化を、幼い頃から自然と体験していくことが大切だと思います。

## ～厚生労働委員会とは～

私は現在、**厚生労働委員会**に所属しております。厚生労働委員会では、医療、介護、福祉、年金、労働、子育て支援など、国民生活に非常に密接なテーマを扱っております。

障がい者施策も、働く環境も、子育て支援も、私自身のこれまでの経験と深く重なる分野です。

また、**災害対策特別委員会**、**消費者問題に関する特別委員会**にも所属し、幅広い課題に取り組んでおります。



## ～当事者として国会にいる意味～

障がいのある当事者が国会にいる意味は、見えにくい困りごとを、制度の議論の中に乗せていくことにあると考えております。

また、聴覚障がいのある国会議員としては、**戦後初**でもあります。

だからこそ、当事者の視点を、責任をもって国政に届けていきたいと考えております。

## ～部会での学び～

毎朝8時から、党の部会や勉強会において、有識者や各省庁から政策の説明を受け、現場の課題や制度の方向性について議論を行っております。



そこで得た知見を委員会の議論へとつなげていく、その積み重ねが**政策形成につながっていくもの**と感じております。



## ～情報アクセシビリティ～

私が特に重視しているのが「**情報アクセシビリティ**」です。情報は、命を守るインフラです。

災害時の避難情報、医療機関での説明、行政手続きに関する案内など、これらにアクセスできなければ、必要な支援にたどり着くことができません。

これは、聴覚障がいのある方だけでなく、高齢者の方々にとっても同様だと思いませんか？

## ～電話リレーサービス～

電話リレーサービスをご存じでしょうか。

これは、手話や文字によるやり取りを通訳者が音声に変換し、聴覚障がい者と聞こえる方との間で電話をつなぐ仕組みです。



このサービスの普及により、これまで難しかった電話によるコミュニケーションが可能となり、社会参加の幅が大きく広がっております。

あわせて、避難所での文字情報の整備や、行政・医療現場での筆談・音声認識・手話通訳の活用など、一つひとつの積み重ねが安心につながっていきます。

### ～合理的配慮の義務化～

2024年4月より、**改正障害者差別解消法**が施行され、民間事業者においても合理的配慮の提供が義務化されました。

これは**共生社会に向けた大きな一歩**です。

しかし、制度ができたこと自体がゴールではなく、現場でどのように実践されるかが、今後の重要な課題であると感じております。

### ～制度を現場に届ける～

法律や制度は、つくるだけでは意味がありません。実際に、店舗や職場、学校、医療現場などで活かされてこそ、初めて人の暮らしを支える力になります。

ぜひ、ロータリークラブの皆様のお立場からも、ご意見やご提案をいただけましたら幸いです。

### ～テクノロジーの可能性～

近年は、AIによる**リアルタイム文字起こし**や**音声認識アプリ**など、テクノロジーが大きく進化しております。

これにより、聴覚障がいのある方だけでなく、高齢者の方、外国人の方、子育て中の方など、多くの方のコミュニケーションを支える可能性が広がってきています。

一方で、テクノロジーが進む中で、人と人との関係性のあり方についても考える必要があると感じております。

### ～テクノロジーと人の関係～

例えば、子育ての現場においても、スマートフォンやデジタル機器との向き合い方が大きな課題となっています。

便利である一方で、人と人との関わりが希薄になる可能性もあります。

だからこそ、テクノロジーという「ハード」と、人の理解や関わりという「ソフト」を、**両輪で進めていくことが重要**であると考えております。

### ～デフリンピックの意義～

昨年、日本で初めて**デフリンピック**が開催されました。デフリンピックはご存知でしょうか？

**聴覚障がいのアスリートのオリンピック**です。



これは単なるスポーツの大会ではなく、聴覚障がいへの理解を社会全体で深める、大きな契機であったと感じております。同時に、情報保障や受け入れ体制など広がりつつも、まだ多くの課題があることも明らかになりました。

### ～レガシーを未来へ～

大切なのは、その熱気を一過性のものにしないことです。

デフリンピックをきっかけに、駅、空港、ホテル、飲食店、行政窓口など、あらゆる場面で多様なコミュニケーションが当たり前となる社会を目指していきたいと考えております。

### ～ユニバーサルデザイン～

例えば、**東京ディズニーランド**では、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめるような工夫が数多く取り入れられています。段差の少ない設計や分かりやすい案内表示だけでなく、アトラクションやショーにおいても、誰もが体験できるよう配慮がなされています。これは「特別な配慮」ではなく、最初から**“誰もが使えるように設計する”**という考え方、いわゆる**ユニバーサルデザイン**です。



また、私の叔父や従姉妹が俳優**劇団四季**ダンサーとして所属していた**劇団四季**でも、

**劇団四季**

現在は**字幕メガネ**や**タブレットの貸し出し**が行われており、聴覚に障がいがあっても舞台を楽しむことができるようになっていました。



私自身も、**ライオンキング**を**字幕**で拝見し、物語の世界に深く入り込むことができ、大きな感動を覚えました。

このように、工夫ひとつで「体験できる人」は確実に増えます。こうした取り組みを、社会全体に広げていきたいと考えています。

## ～見えない壁の正体～

私がこれまでの経験で感じてきたのは、社会にある多くの壁は「悪意」ではなく、「**分からないこと**」から生まれているということです。どう接していいか分からない。どう伝えればいいか分からない。その戸惑いが、結果として壁になってしまう。そういう場面を、何度も見てきました。

## ～だからこそ必要なこと～

だからこそ大切なのは、完璧な対応ではなく「**一步踏み出すこと**」です。分からないままでもいいから、関わろうとする。伝わらなければ、もう一度工夫してみる。その繰り返しで、壁を小さくしていきます。

## ～現場で起きていること～

実際の現場では、ほんの**少しの工夫**で状況が大きく変わることが多くあります。聴力や発音の理解の仕方も、人それぞれ異なります。例えば、説明を口頭だけでなく字幕など「**見える形**」でも示すこと。あるいは、重要なポイントを一度区切って、丁寧に伝えること。このように、一人ひとりに合わせた対応を意識するだけで、理解度は大きく変わってまいります。

## ～外交の場も同じ～

これは国内に限った話ではありません。外交の場でも、言語や文化が違う中で、同じように「**どう伝えるか**」が問われます。つまり、相手に合わせて伝えるという姿勢は、どの場面でも共通する力だと感じています。

## ～実体験から～

私自身、オーストラリア大使とお話した際に、音声認識の技術を使いながら対話を行いました。



完璧ではありませんが、それでも「**伝えようとする工夫**」があることで、会話は成立し、関係も深まっていきました。

## ～多言語化とテクノロジー～

今、コミュニケーションの形は大きく変わりつつあります。特に多言語化の分野では、**同時に複数の言語へ変換できる技術**が進んでいます。これにより、日本語だけでなく、英語やその他の言語にも対応しながら、その場で意思疎通を図ることが可能になってきています。これは、外国の方とのコミュニケーションにおいても、非常に**大きな可能性**を持っていると感じています。

## ～YY文字起こしの具体例～

今、私自身が活用している「**YY文字起こし**」というアプリは、話している内容をリアルタイムで文字に変換し、さらに翻訳機能によって多言語にも対応することができます。



つまり、「**聞こえない**」ことと「**言語が違う**」こと、この二つの壁を同時に越えることができるツールです。



実際の会話の中でも、**相手の言葉を文字で確認しながら理解を深める**ことができ、より**正確なコミュニケーション**につながっています。

## ～広がる可能性～

こうした技術は、単に便利になるだけではありません。これまで出会えなかった人と出会い、関係を築き、協働できる可能性を広げていきます。

障がいの有無や言語の違いを越えて、

「**伝わる社会**」を実現していく力があると感じています。

## ～社会に起きる変化～

こうした取り組みは、単に一部の方のためだけのものではありません。伝わる環境が整うことで、これまで**声を上げられなかった方が意見を伝えられる**ようになり、これまで参加できなかった場に参加できるようになります。その積み重ねが、多様な視点を社会の中に取り込み、結果として、**より質の高い意思決定やサービス**につながっていくのだと感じています。

## ～現場で出来ることの意味～

重要なのは、大きな仕組みを変えることだけではありません。  
日々の現場の中で、  
「どうすれば伝わるか」を一度考えること。  
その一手間が、相手にとっては大きな安心となり、信頼関係を築くきっかけになります。  
私は、こうした積み重ねこそが、  
**社会の質を底上げしていくものだ**と考えています。

## ～最後に～

最後になりますが、私たち障がいのある者が見ている景色は、決して**特別なものではない**と感じています。  
それは、子どもや高齢者が感じる不自由とも重なるものです。  
誰もが、病気や加齢によって、これまで当たり前だったことに不自由を感じる可能性があります。

そう考えますと、

障がいのある方にやさしい社会は、  
**すべての人にやさしい社会であると**、私は信じております。

多様な存在を認め合う社会は、  
日常の中の小さな想像力から前に進みます。  
本日のお話が、その一歩となりましたら幸いです。

## ～ロータリークラブの皆様へ～



本日お集まりのロータリークラブの皆様は、それぞれの地域や分野において、社会を支えておられる存在でいらっしゃいます。  
皆様の現場での判断や行動は、やがて社会全体へと広がっていきます。

ぜひ本日のお話をきっかけに、「伝わる工夫」を意識していただけたら幸いです。  
違いは制約ではなく、社会を豊かにする力です。

結びに、本日このような貴重な機会にお招きいただき、

心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



### 本日の例会

6/1(月)12:30～ @上野精養軒  
卓話 鶴丸はるか氏  
「音楽が見つないだコスタリカの奇跡  
— ひとつの選択で流れが変わった体験 —」  
紹介者 永井会員

### 次回の例会

6/8(月)12:30～ @上野精養軒  
卓話 ファンファンさん帰国前報告

### 今後の例会予定やイベント案内

6/3(水)18:00～グルメを楽しむ会  
上野精養軒グリルフクシマ  
6/11(木)台北龍山 RC20th前夜祭  
6/12(金)台北龍山 RC20th記念式典  
6/13(土)～17(水)台北国際大会  
6/13(土)上野ナイト  
6/14(日)ガバナーナイト  
6/15(月)特別休会